

市は「住むひとが誇りと愛着を感じ、訪ねるひとの心に残る松江の景観づくり」を推進しています。

シリーズ景観45

～『みんなで残したい松江の景観400選集』から景観審議会が特にお薦めする景観～

— No.355 八雲本陣 —

「歴代松江藩主の国内巡視の折、しばしば本陣宿を勤め、明治以降も宮家などの御宿所となりました」と推薦いただきました。

八雲本陣は、木幡家という旧家の住宅で、古くから交通の要衝として栄えた宍道町宍道の旧山陰道沿いにあります。主屋は享保18(1733)年に建てられ、藩主のための御成門や、家人のための大戸口も残されています。この主屋は、山陰地方における商家の特徴を理解するうえで重要であるとして、昭和44(1969)年に重要文化財に指定され、さらに平成21(2009)年には新座敷棟などの7棟が追加指定されました。

黒い瓦や白い壁、落ち着いたベンガラ色の格子など、時代劇から飛び出してきたような佇まいは、堂々たる存在感でありながらも、現代の宍道町の町並みに違和感なく溶け込んでいます。町の中で、現代と歴史とが穏やかに共存している様子に心がなごみます。



「みんなで残したい松江の景観400選集」は、市ホームページでご覧いただけます。
【問い合わせ】まちづくり文化財課 ☎55-5387

松江の景観400選

検索

